

# 自動車についての共感覚

岩崎 純一

2014年10月6日作成

掲載サイト:「岩崎純一のウェブサイト」

<http://iwasakiunichi.net/>

## 目次

1. 解説(私の運転経験と共感覚のポイント)
2. 日産自動車の車種についての共感覚
3. 日産スカイラインについての共感覚



【画像引用元】

[http://en.wikipedia.org/wiki/Nissan\\_Skyline](http://en.wikipedia.org/wiki/Nissan_Skyline)

Photos by Tennen-Gas

## 1. 解説(私の運転経験と共感覚のポイント)

私は、自動車のデザイン(主にエクステリア、次にインテリア)やエンジン音(走行音)についても共感覚を持っています。そのほとんどが、幼少期から二十歳頃までに、自動車カタログを見たり、外で実車を見たりしているうちに身についたものです。

全てを紹介することは困難であるため、ここでは、日産自動車の車種、そしてその中からスカイラインの歴代モデルを例にとり、エクステリアやエンジン音の共感覚色を紹介します。

2の(ア)(イ)(ウ)の背景色は、それぞれの車種のエクステリア全般に対する主な共感覚色を表しますが、必ずしも一定ではなく、より細かなエクステリアやエンジン音についての共感覚色の一例として、3のスカイラインの歴代モデルの例をご覧ください。

また、念のためこれまでの運転経験も以下に記しておきましたが、先述のように、共感覚による自動車の記憶は、ほとんどが運転免許を取得した19歳以前(特に、自動車カタログを丸暗記していた児童期)に形成されたものであり、共感覚記憶自体への影響の有無は現在も追究中です。

(これに関しては、実のところは、私が単に昭和時代の日産のファンであるという意味合いが強く、児童期に形成された共感覚記憶とはそこまで関係が深くない可能性が高いです。ただし、「今でも、好きな車は好きな共感覚色に見えやすい傾向がある」ということは言ってよいと思われます。)

現在では、ここで紹介している車種の半数近くが生産停止となっているほか、ハイブリッドカーなどのエコカーが台頭し、(私の共感覚で聴取可能な)エンジン音が電気モーター音へと移り変わっており、電気モーターの搭載方法などに合わせて自動車のエクステリア・インテリアそのものへの思想がかつてと大きく異なっているため、基本的にここで紹介する共感覚が大きく役立つ機会は少なくなっています。

かつては、事故現場での損壊の激しい車のモデルを言い当てたり、目の前を走行する車のモデル名を連続30台で言い当てる遊びを一人で楽しんだり、様々なことに役立てていました。

余談ですが、個人的には、日産スカイラインの現状を見ていて、かつてより今のほうが目にも(デザイン的にも)環境にも?悪くなっていると感じています。13代目 V37型に至っては、日産自身がそこかしこで漏らしている通り、「都心のタワーマンションに住む」数百人程度の超上級顧客のためのもので、スカイラインでさえないと思っています。私がスカイラインだと思っているのは、良くも悪くもR34型までのモデルです。

私が共感覚で知覚・認識している自動車	1960年代～1990年代の国産車 (トヨタ、日産、ホンダ、三菱、マツダ、スバル、スズキ、いすゞ、光岡自動車など)
	その他、海外の自動車の一部
	モータースポーツのマシン(主にF1、インディカー)
私の運転経験	日産 スカイライン R34型(4ドア) 日産 ブルーバード U14型(4ドア) 日産 デュアリス J10型(4ドア)

※ 次ページ以降のポイント

○よく巷では「日本車名にはラ行音がほぼ必ず入っている」と言われ、実際に9割ほどの車名がそうであるが、どの車名にもラ行音があるということは、そもそも車名が似ていて暗記しにくいということでもあり、ラ行音の響き・音象徴から来る「洗練されたイメージ」を狙った自動車メーカーの販売戦略の意味合いが強いと考えられ、私自身も、共感覚を使って覚えられない場合は、車名から受ける表面的なイメージや「覚えにくさ」は一般的な五感保持者と同等であると考えている。  
(当然、車名にラ行音が含まれるか否かは、自動車の性能の良し悪しとは何の関係もない。)

○サイト内で別に紹介したカタカナについての共感覚色(車名の文字の色)が車種の色に近い場合もある。ただし、無関係の場合がかなり多い。

○2の(ア)および(イ)では、最初のモデル発表年または販売年が私の誕生日前から二十歳前までの車種が9割を超え、(ウ)では、私が二十歳になるまでは存在していなかった車種が9割を超えている。このことから、共感覚による記憶は幼少期・児童期・若年期に身につけやすいことが分かる。

○さらに、2の(ア)と(イ)を比較すると、(ア)はいわゆるかつての33ナンバー・高級車で車長が長く車高の低い車種が多く、(イ)は中型車・小型車または車高の高いワゴン車・バン・SUV車が多い。これは、(ア)の車種がエンジン音が最も個性的に反響するフォルムを持つためだと考えられる。

○3では、(ア)(イ)(ウ)の各モデルが全体として「く」の字を描いており、これも共感覚の特徴をよく示している。私が誕生する以前のモデルと成人してから登場したモデルは、当然共感覚色が付きにくく、(イ)や(ア)への移行が遅れている。

## 2. 日産自動車の車種についての共感覚

(ア)	(イ)	(ウ)
エクステリア・インテリアの目視、エンジン音(街中の雑踏内を走行中の場合を含む)の聴取のいずれでも共感覚色によって車種を言えるもの	エクステリアを目視すれば共感覚色によって車種を言えるもの	共感覚によって記憶していない車種(共感覚によらず、単に車好きの延長で記憶したもの)
インフィニティQ45	アベニール	エクストレイル
グロリア	アベニールサリュール	オットー
グロリア・シーマ	ウイングロード	キックス
グロリアワゴン	エクサ	クリッパーリオ
サニー	エルブランド	ジューク
サニーNXクーペ	キャラバンエルブランド	ティーダ
シーマ	キャラバンコーチ	ティーダラティオ
シルビア	キューブ	デイズ
スカイライン	キューブキュービック	デイズルークス
ステージア	クエスト	マイクラC+C
セドリック	クルー	モコ
セドリック・シーマ	サニーカリフォルニア	ラティオ
セドリックワゴン	サファリ	ラフェスタ
バサラ	シルフィ	リーフ
パルサー	スカイラインクロスオーバー	ルークス
パルサーセリエ	セフィーロ	GT-R
パルサーセリエS-RV	セフィーロワゴン	NV100クリッパーリオ
フェアレディZ	セレナ	NV200バネットワゴン
ブルーバード	ダットサンピックアップ	NV350キャラバンワゴン
ブルーバードワゴン	ティアナ	e-NV200ワゴン
プレジデント	ティーノ	
プレジデントJS	デュアリス	
マキシマ	テラノ	
レパード	テラノレグラス	
レパードJ・フェリー	ノート	
ローレル	バネットセレナ	
VWサンタナ	バネットラルゴコーチ	
	パオ	
	ピノ	
	フーガ	
	フーガハイブリッド	
	フィガロ	
	ブルーバードオーズィー	
	ブルーバードシルフィ	
	プリメーラ	
	プリメーラワゴン	
	プリメーラ・カミノ	
	プリメーラ・カミノワゴン	
	プリメーラUK	
	プレーリー	
	プレーリージョイ	
	プレサージュ	
	プレセア	
	ホームーエルブランド	

	ホームーコーチ	
	マーチ	
	マーチBOX	
	ミストラル	
	ムラーノ	
	ラシーン	
	ラルゴ	
	ラングレー	
	リバティ	
	ルキノ	
	ルキノ・ハッチ	
	ルキノSR-V	
	ルネッサ	
	ADワゴン	
	AD MAXワゴン	

### 3. 日産スカイラインの歴代モデルについての共感覚



R32型



R33型



R34型

		(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
私の年齢	歴史	エクステリア・インテリアの目視、エンジン音（街中の雑踏内を走行中の場合を含む）の聴取のいずれでも共感覚色によって車種を言えるもの	エクステリアを目視すれば共感覚色によって車種を言えるもの	共感覚によって記憶していない車種（共感覚によらず、単に車好きの延長で記憶したもの）	エンジン音の基本的な共感覚色
(この時期のモデルは、誕生後に自動車カタログを見たり街中で見かけたりして共感覚を得た。初代と2代目は実車をみたことがなく、未だに共感覚が得られていないのが惜しいところである。)	プリンス自動車工業が発表。			初代 スカイライン ALSI型(1957年-1963年)	
				2代目 スカイライン S5型(1963年-1968年)	
	プリンスが日産と合併したため、日産スカイラインとなる。		3代目 スカイライン C10型(1968年-1972年)		
			4代目 スカイライン C110型(1972年-1977年)		
		5代目 スカイライン C210型(1977年-1981年)			
誕生～8歳		6代目 スカイライン R30型(1981年-1990年)			
3歳～7歳		7代目 スカイライン R31型(1985年-1989年)			

7歳～11歳		8代目 スカイライン R32型(1989年-1993年)			
11歳～16歳		9代目 スカイライン R33型(1993年-1998年)			
16歳～19歳 (教習所でブルーバードを運転。)		10代目 スカイライン R34型(1998年-2001年)			
19歳～24歳 (R34型を運転。) ※ 解説でも余談で書きましたが、R34型をもって良くも悪くも「スカイライン」そのものが終焉したと思っています。	スカイラインGT-Rの生産終了。セダンとクーペを分離。これ以降、海外でインフィニティ・ブランドで製造・販売したモデルを「スカイライン」として日本向けに採用。	XVL→インフィニティ・G35 (日本名: 11代目 スカイライン セダン V35型) (2001年-2006年)			
		インフィニティ・G35 クーペ (日本名: 11代目 スカイライン クーペ CV35型) (2003年-2007年)			
24歳～ (R34型を運転。その後、デュアリスを運転。)	(日産GT-R製造開始。)		インフィニティ・G35セダン (日本名: 12代目 スカイライン セダン V36型) (2006年-)		
			インフィニティ・G37 クーペ (日本名: 12代目 スカイライン クーペ CV36型) (2007年-)		
32歳～				インフィニティ・Q50 (日本名: 13代目 スカイライン セダン V37型) (2014年-)	